

あじさいネット

OFF LINE 通信

2023.4
Vol. 46

Regional Health Information Network



大瀬崎灯台（五島市）

運用報告	あじさいネット通常総会 開催報告	p.2
特集	検査データ共有サービス	
特集	検査データ共有サービスを利用しましょう！ あじさいネット理事 松本 武浩 先生	p.3
特集	～検査結果を他院や薬局と共有しましょう～ 検査データ共有サービス	p.4、7
お知らせ	iPad に関するご案内 入会のご案内	p.5 p.6
特集	ネットワーク型地域連携パス 長崎大学病院 立石 洋平 先生、黒部 昌也 先生	p.8-9
ご案内	あじさいな人々／編集後記	p.10

現在の運用状況

- 患者登録数： 161,658 名
- 会員数： 1,871 名
- 情報閲覧施設数： 364 施設
- 情報提供病院数： 37 施設

(令和 5 年 3 月 16 日現在)

賛助会員

- ◆ 日本電気株式会社 医療ソリューション事業部
- ◆ 株式会社 L S I メディエンス
- ◆ 株式会社 NTT データ中国
- ◆ 富士通 Japan 株式会社 長崎支店
- ◆ 株式会社 インテグリティ・ヘルスケア
- ◆ 東七株式会社
- ◆ ノバルティス ファーマ株式会社
- ◆ 株式会社 エスアールエル
- ◆ 沢井製薬株式会社

令和4年度NPO法人 長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会(あじさいネット) 通常総会が開催されました。

令和4年11月14日(月)19:00～19:30 於：長崎県医師会館

終始穏やかな雰囲気です。次年度事業計画・予算等議案の協議が行われ、
全議案滞りなく承認議決されました。

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 議事録署名人の指名
4. 議 事

1号議案 令和3年度通常運用報告について

会員数・参加施設数

以下の()は前年度からの増減数です。

- ・会員 1,826名 (242人増)、賛助会員8社、団体・組織入会10団体
- ・参加施設 406施設 (7施設増)
- ・情報閲覧施設 368施設 (6施設増)、情報提供病院38施設 (1施設増)

活動実績

- ・あじさいネット見学対応 5回【R3.10～R4.9】
- ・学会・研究会発表・講演 14回【R3.10～R4.9】
- ・運営委員会、運用講習会・説明会等 24回【R3.10～R4.9】

2号議案

- ・「令和3年度」決算等について 監査報告

3号議案

- ・「令和4年度」事業計画(案)について

4号議案

- ・「令和4年度」予算(案)について

5号議案

- ・理事及び運営委員改選について

その他

5. 閉会の辞



《賛助会員様広告欄》



Healthcare for You

私たちエスアールエルは、医療機関から預かる、患者さまの検体を通して、
いのちの未来を見つめています。



2020年10月1日、エスアールエル、富士レピオ、日本ステリの営業機能がひとつになり、H.U. グループの営業統合会社「H.U. フロンティア株式会社」がスタートしました。

株式会社 エスアールエル 本社 〒163-0409 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング TEL.03-6279-0900 www.srl-group.co.jp

いつでも便利です

あじさいネット
検査データ
共有サービスを
利用しましょう!

医療DXに向けた政府の方針と 全国医療情報プラットフォーム

特定非営利活動法人 長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会 理事
長崎大学病院 医療情報部 部長

松本 武浩 先生



あじさいネットは、地域の拠点病院の全電子カルテ情報を参加医療機関で共有するサービスとして始まってすでに19年目に入りました。あじさいネットを契機に、全国各地にあじさいネット型の地域医療連携ネットワーク（以下、地連）が広がったことはご存じかと思いますが、一方、政府は、新型コロナウイルスで露呈した他国よりも遅れている医療のDX化を、強力に進めようと、マイナナンバーカードの保険証利用と将来的な現行保険証廃止、本年4月からのマイナナンバーカードを利用したオンライン資格確認の義務化、これによりオンライン資格確認ネットワークを利用した処方情報と特定健診レポートの閲覧が可能となります。今後、この機能を拡張して閲覧できる対象を、3文書・6情報に広げる方針です。

3文書とは、①診療情報提供書、②退院サマリ、③特定健診レポート、6情報とは、①傷病名、②アレルギー情報、③感染症情報、④薬剤禁忌情報、⑤一部の検査情報（救急時に有用な検査、生活習慣病関連の検査）、⑥処方情報です。また、昨年10月には、医療情報・システム整備体制充実加算が新設され、診療所・病院初診、薬局においてもマイナナンバーを利用しないと20円割高になりますし、4月からは診療所・病院の初診では40円、再診で20円割高となりますから、マイナナンバーカードを持参する患者は確実に増えるものと思います。これは政府が、各医療機関で診療中に、診療情報を活用することを推進するものです。

あじさいネット会員の皆様は、診療中の診療情報閲覧に慣れているので問題ないと思いますが、一般の医療機関は大きく混乱するものと思われます。また、電子処方箋サービスも1月より開始されました。現在は、全国4地域で実証事業中です

が、重複処方検出に極めて有用という結果が報告されていますから、政府は急速に普及をはかるものと思います。これにより処方情報がすべて共有できる点は、3文書・6情報の補完となります。一方、政府は、オンライン資格確認ネットワークを、全国医療情報プラットフォームと称しています。最近、これが地連に置き換わるのかという質問をよく受けますが、それは無いと回答しています。厚労省の全国医療情報プラットフォーム構築に関する会議では、地連と相互補完する方針が示されていますし、3文書6情報が利用できるには、全電子カルテメーカーがこれらの情報の出力に対応する必要があるため、5年かかるでしょう。また、あじさいネットの閲覧ログを調べると、医師カルテや看護カルテの閲覧が5割以上と最も多いのですが、3文書・6情報には含まれていません。むしろ、あじさいネットで共有できていない情報が加わることで、あじさいネットの価値がさらに高まるものと思います。

さて、3文書・6情報の閲覧も医療機関に電子カルテが運用されていることが前提です。病院の電子カルテ導入は進んだものの、診療所の導入はまだです。県内の拠点病院の情報はほぼすべてと言ってよいくらい長崎県では共有できています。残るは診療所の情報となります。その中でも重要なのは、自院での検査結果と処方情報だと思っています。これに対して、あじさいネットでは「外注検査データ共有システム」を持っており、すでに57診療所が利用されています。これは、自院で実施した全外注検査結果があじさいネット端末にあるいはiPadで閲覧できるものです。もちろん、電子カルテやオーダーリングシステムも不要です。異常値の赤色表示、正常値表示、時系列表示やグラフ表示も可能な上、多職種連携同意書を

利用すれば、他の診療所・病院や薬局と検査結果の共有ができます。今年中には、専用ビューワ上で複数医療機関の検査結果を時系列表示の対応を実施予定です。また、あじさいネット上に構築した地域連携パスであるネットワーク型パスの利用も徐々に広がっています。ネットワーク型パスに必要な検査データは、この検査データ共有システムにより自動で格納されるので、手入力が必要で負担が少ない点もメリットです。検査データ共有システムを利用開始した診療所はその機能に大変満足され、とても喜ばれています。

ただ、現在あじさいネットに参加している診療所は196施設ですので、139施設が利用していないこととなります。この理由は、おそらくこの便利で有益な機能を存じないものと危惧しております。この機能により、検査結果だけを一瞥で迅速に異常がないか確認できますし、iPadで迅速に異常がないか確認できますので、外出先で、患者さんから問合わせがあった場合、迅速に適切な対応が可能でしょう。また、オンライン資格確認ネットワークの認知度は今後急速に広がると考えられますので、他院で実施した検査結果を利用してもらえないかという患者さんが増えるでしょう。その際に、多職種連携機能を利用すれば、簡単に他院の結果を確認できますし、他院や病診連携先の病院でも同様です。このような優れた機能にも関わらず、あじさいネット会費以外の追加費用は無料なのです。ぜひ、これを機会にご利用をご検討ください。また、すでに利用されている施設におかれましては、未導入施設にその価値を伝えてあげてください。

本号では、検査データ共有に関する以前お知らせした内容を、もう一度お知らせいたします。

《賛助会員様広告欄》

Orchestrating a brighter world

NECは、安全・安心・公平・効率という社会価値を創造し、
誰もが人間性を十分に発揮できる持続可能な社会の実現を目指します。

～検査結果を他院や薬局と共有しましょう～

検査データ共有サービス

臨床検査会社に外注している血液検査の結果を、あじさい端末やiPadで参照・グラフ化・印刷ができる機能です。

さらに、患者さんの同意を取得すれば他の医療機関と共有をしたり、情報提供病院のデータと同時に表示させたり、疾病管理のシステムに自動的に取り込んだりと、検査データをより活用できるようになります。

検査データを、より有効に活用する

診療に伴って行われる様々な血液検査を、検査会社に外注した場合、結果は紙にプリントされて返ってきます。このため、すぐにデータを確認したいときでもカルテを探し開く手間がかかります。また、検査データの結果を他の医療機関と共有することができませんでした。この問題を解決したのが「検査データ共有サービス」です。あじさい端末やiPadでいつでも手軽に確認ができ、他の医療機関とデータ共有が可能になります。

3つの機能

「検査データ共有サービス」には、次の3つの機能があります。

① 検査データ閲覧

自院の患者さんの外注検査データをあじさいネットの画面上で確認できるほか、グラフ化や印刷が可能になります。iPadからでも閲覧が可能です。

② 検査データ共有

自院の患者さんの外注検査データが情報提供病院をはじめ他の医療機関の検査データとともに一覧表示され、複数の医療機関で共有することができます。

(※患者さんの同意が必要です)

③ 検査データ自動取込

あじさいネット上で稼働する「周産期医療支援システム」、「糖尿病疾病管理システム」、「地域連携パス」において、管理に必要な血液検査のデータが自動的に記録されます。治療管理や、拠点病院と連携クリニックの共同診療などに活用されます。

(※患者さんの同意が必要です)

③ 自動取込	② 共有	① 閲覧	
あじさいネット上で運用している下記のシステムに、検査データを自動で取り込みます。 ● 糖尿病疾病管理システム ● 地域連携パス ● 周産期医療支援システム	「あじさいネットを利用した多職種連携」参加同意書を取得すれば、あじさいネットの診療情報閲覧画面(ID-Link、HumanBridge)に自院の検査結果が表示されます。他の医療機関と時系列で並べて表示することができ、他の医療機関との検査データ共有が可能です。	あじさいネットポータルの「検査結果参照」ボタンをクリックすると、自院の全患者の検査結果を見ることができ、グラフ表示や印刷、CSVダウンロードが可能です。 (あじさいネットの参加同意がない患者のデータも閲覧可能です。)	機能
■ 患者さんごとに、各システムの参加同意書	■ 患者さんごとに、「あじさいネットを利用した多職種連携」参加同意書	ポスター掲示	必要なもの

すべての機能が **追加費用なし** でご利用できます！

《賛助会員様広告欄》

NTT DATA



あじさいネット会員様向け
オンライン請求 + オンライン資格確認

訪問看護
ステーション
でも利用可能

あじさいネット会員様は「+1500 円」(月額) でオンライン請求・オンライン資格確認を利用可能です

オンライン資格確認の導入は NTT データ中国の
「おまかせパック」をご利用ください。

おまかせパックお申込みでWiFi 機器をプレゼント！

NTT データ中国「オンライン資格確認」接続サービス推進事務局

お電話：082-567-4810 メール：onshi@its-center.net

技術員が訪問し
設置・接続いたします

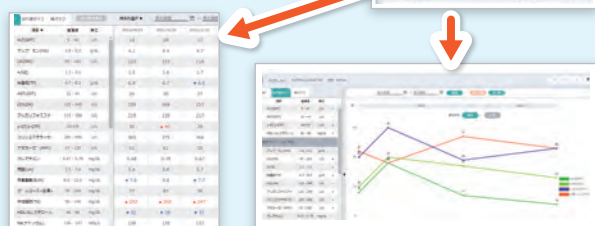


閲覧

1. あじさいネットポータル画面にある、「検査結果参照」ボタンをクリックする。

検査結果参照

2. 自院の患者一覧が表示される。詳細を表示させたい患者を選択すると、データを閲覧したり、グラフ化や印刷などが行える。



共有

※患者さんの同意が必要です

1. 患者さんから「あじさいネットを利用した多職種連携」同意書を取得し、あじさいネット事務局に提出する。
2. あじさいネットポータル画面からID-Link または HumanBridge に入る。

ID-Link Gate

HumanBridge Gate

3. 患者情報を表示させると他院と自院の検査データアイコンが同列に表示される。

他院のデータ

自院のデータ

◀(※画面はID-Linkのものですが)

4. 検査の詳細データも、時系列で並んで表示される。



自動取込

1. あじさいネットポータル画面で、下記の利用するシステムのボタンをクリックします。

- ・周産期医療支援システム
- ・糖尿病疾病管理システム
- ・地域連携パス



2. それぞれのシステム内で、検査結果が自動的に記録・表示されます。



検査データ共有サービスの利用を始めるには？

はじめに 施設の利用申請をする

「閲覧」・「共有」・「自動取込」の3機能いずれか一つでも使う場合に必要です

あじさいポータル画面上の「検査データ共有サービス」バナーから関係書類一式をダウンロードし、以下の2つを提出する。

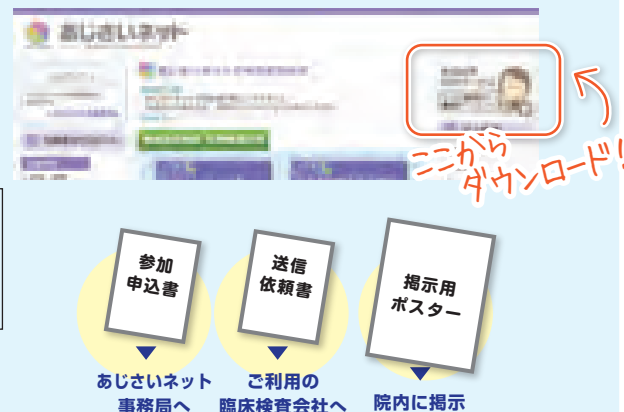
- 送信依頼書 (→ ご利用の臨床検査会社へ提出)
- 検査データ共有サービス参加申込書 (→ あじさいネット事務局へ提出)

関係書類一式(一括ダウンロードが可能)

- 書類送付案内 ●あじさいネット検査データ共有サービスについて
- 申込と準備 ●参加申込書 ●送信依頼書 ●院内掲示用ポスター
- データ閲覧:確認報告書 ●臨床検査会社:書類送付先一覧
- 「あじさいネットを利用した多職種連携」説明同意書 ●検査結果参照マニュアル

本サービスには患者さんの包括同意が必要ですので院内の見やすい場所に**ポスター**を**掲示**してください。

注意 検査会社を変更された場合は、変更先検査会社へ「送信依頼書」をご提出ください。



あじさいネット利用iPadの専用セキュリティ設定作業
及び 本iPadの障害対応について

有料化のご案内

令和5年5月1日より

専用セキュリティ設定作業と本iPad障害対応の
外部委託に伴い費用が発生致します。

大変心苦しい内容ではありますが、ご対応頂けますようお願い申し上げます。



新規iPad設定及び機械交換時費用:

1台 **5,500**円(税込)

※作業料のみ。本体往復送料も会員様御負担

本iPadの障害対応費用:

1台 **7,700**円(税込)

※作業料と委託業者からの本体返却送料含む

※事務局もしくは委託業者への本体送料は会員様御負担

※月額770円(税込)の利用料金は、そのままです※

※お申込は、従来通りあじさいネット事務局へお申込みください。※

《賛助会員様広告欄》



新しい発想で医療に貢献します

 **NOVARTIS**

ノバルティス ファーマ株式会社
<http://www.novartis.co.jp/>

あじさいネット 入会のご案内 【閲覧施設用】

情報提供病院の入会については手続き・費用とも本ページの記載と異なりますので、あじさいネット事務局にお問合せください。

入会申請から利用開始までの流れ 申請書類ダウンロード:あじさいネットホームページ <http://www.ajisai-net.org/>

1. 入会申請書を提出する

入会申請書に必要事項を記入し、あじさいネット事務局へ提出します。(申請書はホームページからダウンロードできます)

..... 施設が新規に入会する時に必要な書類

- 施設入会申請書【情報閲覧施設用】
- 機器設置ヒアリングシート
- 入会する人数分の 個人入会申請書

2. 運用講習会を受講する

あじさいネットの概要や、利用に際し必要な事をご説明する「運用講習会」を受講していただきます。

(講習会の日時や場所は、入会申請受理後にご案内いたします)
受講が終わると、「あじさい会員ID」が発行されます。

2. 機器を設置する

あじさいネットを利用するために必要なVPN機器の設置をするため、専門業者が施設にお伺いいたします。

(設置の日程については入会申請後、専門業者よりご案内いたします。)

3. 初期費用・利用料のお支払い

入会金・初期設定費用・利用料をお支払いいただきます。

※「利用料」は会費およびシステム料・ウィルス対策費用で、毎年10月以降に1年分を請求します。入会時は機器設置の翌月から9月分までを一括でお支払い下さい。

4. ご利用開始

これであじさいネットが利用可能です。患者さんから同意書を取り、情報提供病院にFAXすると約15分で(※)診療情報が閲覧できるようになります。皆様の日々の診療にぜひお役立て下さい。

※ 多人数登録の同意書については、設定に15分以上かかる場合があります。

閲覧施設の皆さまが
入会する場合の

入会時の費用

入会金
(1施設ごと)

50,000 円

初期設定費用
(VPN機器1台)

30,000 円

所属団体が
入会済なら
無料!

※ 所属団体(医師会、薬剤師会等)が入会されている場合は、**入会金が無料**になります。

※ 施設の種別が「病院」の場合は病床数により金額が変わります。詳しくは事務局へお尋ねください。

入会についての
お問い合わせ先

あじさいネット事務局
(長崎県医師会内)

095-844-1111

閲覧施設の
皆さまの

会員区分とご利用料金

	正会員	準会員*	ポータル会員*	システム料 (VPN機器1台)	ウィルス対策ソフト ライセンス料 (パソコン1台毎)
年会費 (1年分一括払い)	36,000 円 (月額3,000 円)	12,000 円 (月額1,000 円)	2,400 円 (月額200 円)	12,000 円 (月額1,000 円)	3,000 円
利用できる機能	あじさいネット 基本機能全て	あじさいネット 基本機能全て	希望する 1機能のみ	(価格は全て税込です)	
総会議決権	○	×	×	※ 5人以上入会する施設は会費が割引になります。 詳しい金額は事務局へお問い合わせ下さい。 ※ 情報提供病院はこの表と金額が異なります。	

* 1施設において、少なくとも1人は正会員となります。「準会員」または「ポータル会員」は、2人目以降の入会者について選択可能となります。

《賛助会員様広告欄》

東七は「健康」をテーマに、医薬品の安定供給と医療機器販売、介護サービス支援を通じて、地域医療の発展に貢献する『総合ヘルス・コーポレーション』を目指しています。

2021年 東七 は、創業115周年を迎えました。

～Since1906～

総合ヘルス・コーポレーション
TOSHICHI
東七株式会社

本社所在地 〒857-0192 長崎県佐世保市瀬戸越4丁目1318-1 TEL 0956-41-0777 介護サービス 0956-37-6000

ネットワーク型 地域連携パス

あじさいネットのネットワーク型地域連携パスについて、
長崎大学病院の脳神経内科 立石 洋平 先生よりご寄稿いただきました。
あじさいネットの地域連携パスは、治療経過を共有する治療計画表や管理表の電子版です。

あじさいネット上でクリニックの医師と情報提供病院の医師が、
患者さんの治療を協力して行うため、より詳しい情報の共有が可能になります。

脳卒中、心疾患の現状

平成29年度厚生労働省の調査で、心疾患と脳卒中を合わせた入院患者は228万人に上り、また、これらの疾患で国民医療費の20%を占めています。2018年12月の国会で可決された「脳卒中・循環器病対策基本法」は、脳血管障害と心疾患の予防を推進し、医療費や介護費の削減を図ることを主な目的としています。しかし、その具体的な方策は未だ示されていません。

脳卒中と心疾患は、いずれも高血圧を始めとした動脈硬化リスクがその発症に関わっており、両疾患の関連は強いといえます。また、両疾患発症後はそれぞれが再発することだけではなく、もう片方の疾患を発症するリスクにも注意する必要があります。長崎大学病院の脳卒中データベースによると、心原性脳塞栓症（心房細動等、心疾患が原因

の脳梗塞）で退院後3ヶ月以内に心不全を発症した患者は19/587人（3%）でした。一方、心不全の既往がある脳梗塞患者は141/1504人（9%）心原性脳塞栓症に限ると104/587人（18%）と決して少なくはありません。このように、強く関連のある両疾患それぞれの患者を同一のデータベースに登録する外来レジストリがあれば、両疾患の二次予防管理が同時にできるのではないかと考えました。

心不全・脳卒中中の二次予防のために

そこで、私たちは、循環器内科 河野准教授、黒部医師と協力して、すでに地域で使われているあじさいネットを利用した心不全・脳卒中パスを作成いたしました。大きな目的は、「心不全、脳卒中中の二次予防」です。心不全を未然に防ぐために、体重増加やバイタルサインの変動を捉えることが重要です。また脳梗塞の発症時に心拍変動や採血データであるBNPが変動することも報告されています。循環器内科、脳卒中専門医とかかりつけ医の間で、オンタイムに患者さんの生体データを共有し、相談できることは、患者さんのためだけでなく、非専門のかかりつけ医においても安心できるシステムだと思っています。多くの先生方が利用されているあじさいネットだからこそ、この心不全・脳卒中パスはそのツールになります。

心不全・脳卒中パスの運用はかんたん

利用のためには、同意書の取得が必要です。入力は、図のように

外来受診時に心不全・脳卒中パスを開き、体重、バイタルサインなどを入力していただきます。採血データは、検査データ共有サービス（無料）を用いることにより自動で格納されますので手入力は不要（！）です。

心不全・脳卒中パスの将来

近い将来にはウェアラブルデバイス患者さんに貸与して、心拍数や心電図、血圧、SpO2、血糖値などを自動格納できる仕組みも検討しています。

この心不全・脳卒中パスが地域全体に広がると、心不全、脳卒中患者が減るかもしれないと夢想しております。今のままではまだ不十分ですが、地域の先生方と協力して、まずは多くの患者さんを登録していくことが、新しい知見につながるが、より良い地域医療につながるはず。私たちは皆様と協力して、長崎の心疾患、脳卒中患者を減少させたい。そう思っております。よろしく願いいたします。

《賛助会員様広告欄》

「つなぐ医療」から、
「支える医療」へ。

富士通は、医療の未来をカタチにしていきます。

地域医療ネットワークの整備が進むなか、富士通は、地域と住民を「支える医療」にいち早く着手。災害時の事業継続、ビッグデータによる個別化医療、創業の加速化をサポートします。

HumanBridge EHRソリューション

製品・サービスについてのお問い合わせは

富士通コンタクトライン（総合窓口）0120-933-200（受付時間 9:00～17:30 土・日・祝日・年末年始を除く）

<http://jp.fujitsu.com/solutions/medical/products/humanbridge/>

shaping tomorrow with you

社会とお客様の豊かな未来のために

FUJITSU

今までの地域連携パスと あじさいネットのネットワーク型地域連携パスの違い

今までの地域連携パス



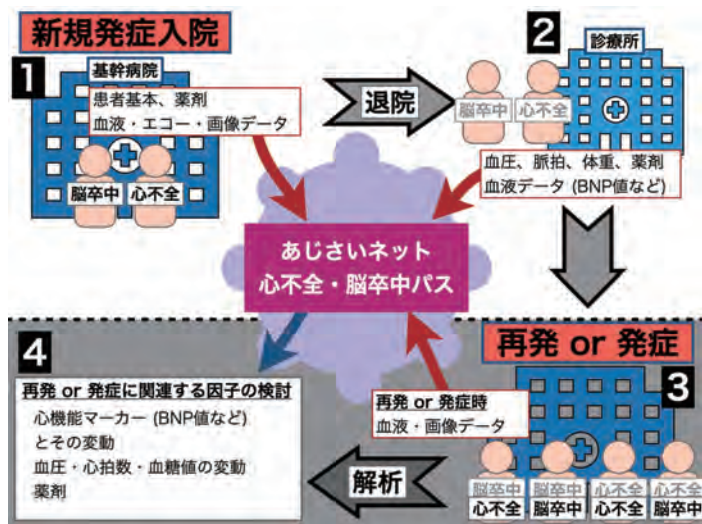
従来の地域連携パスでは、患者さんに受診の際にノート（連携シート）を持ってきていただき、そのノートで治療計画表や管理表の確認をしていました。

あじさいネットのネットワーク型地域連携パス



あじさいネットのネットワーク型地域連携パスでは、今までノートで確認をしていた内容があじさいネット上で共有ができるため、双方の先生が確認したいときにいつでも確認が行えます。また、専門の先生がクリニックの先生にフォローを入れることも可能になります。

ネットワーク型地域連携パスの運用の流れ



- 1 脳卒中、もしくは心不全で基幹病院に入院した患者さんから同意をいただき、入院中データをあじさいネット内の心不全・脳卒中パスに登録します。
- 2 退院後のかかりつけ病院で評価された、体重、バイタルサイン等を入力していただきます。血液データは自動格納されます。
- 3 残念ながら、心不全や脳卒中を発症してしまった場合にも、その時のデータを心不全・脳卒中パスに入力します。
- 4 データをもとに、脳卒中や心不全発症時前後のデータを解析し、再発や発症に関連する因子を調べます。

現在あじさいネットにある地域連携パスの種類

運用またはテスト中 … 乳がん 胃がん 心不全・脳卒中 心筋梗塞 糖尿病医科歯科連携 汎用パス
準備中 … 肺がん 肝がん 大腸がん 大腿骨頸部骨折 睡眠時無呼吸症候群

※ネットワーク型地域連携パスを行いたい方はあじさいネット拡充プロジェクト室までご連絡ください。

《賛助会員様広告欄》

ぬくもりのある医療を、
100年先も、ずっと。

Warmful Healthcare for the next 100 years & ever.



インテグリティ・ヘルスケアでは、製薬企業や、病院・大学研究機関向けに、実臨床・臨床研究・臨床試験で活用されるePROプラットフォーム「YaDoc」を提供しています。

株式会社インテグリティ・ヘルスケア <https://www.integrity-healthcare.co.jp/>



Integrity
Healthcare

今年度は、医療DX元年になりそうです！

「マイナンバーカード保険証利用、オンライン資格確認義務化、全国医療情報プラットフォーム構築、電子処方箋サービス開始、医療情報・システム整備体制充実加算」

本文内にも記載しましたが、今年度は、地域医療での診療情報共有を政府が大きく進めるスタート年になりそうです。オンライン資格確認義務化と医療情報・システム整備体制充実加算により、これまであじさいネットが進めてきた、診療中の地域の診療情報閲覧、共有が推進されるでしょうし、重複処方削減に有効な点が報告された電子処方箋サービスは政府が強力に進めるでしょう。全国医療情報プラットフォームの構築は、あじさいネットが始めた地域医療内の、診療情報共有、他の情報を活用した診療が全国に広がり、ついには、政府が全国共通の地連を構築開始したとも言えます。医療分野においては、本プラットフォーム上で3文書・6情報を共有方

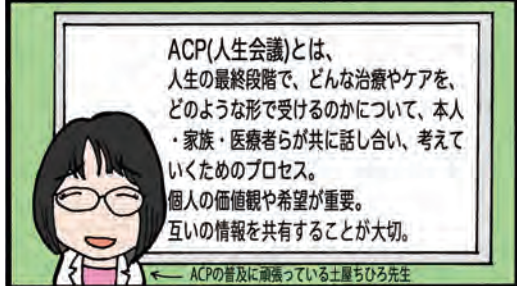
針ですが、介護分野においても、本プラットフォーム上で共有する介護情報が検討されています。一方、4月以降、ついに新型コロナも5類指定に変更され、平常診療で対応となりそうです。こうなると診療所の負担は増えるでしょう。インフルエンザ以上に強力な感染力は、当面変わらないでしょうから、感染防御した診療が日常になっていきます。そうなれば、オンライン診療による初診、再診の価値が大きく注目されるでしょう。オンライン診療は、究極の防御になるからです。これまでもお知らせしてきましたが、あじさいネットはオンライン診療ソフトウェア「YaDoc」を提供するインテグリティ・ヘルスケア社と提携しており、あじさいネット会員

は「YaDoc」をあじさいネット特別価格（通常の1/3）で利用できます。現在、6病院、13診療所、1調剤薬局の計20施設が利用しており、利用施設は年々増えています。かかりつけ医は、法制化されましたが、調剤薬局に対しても厚労省はかかりつけ薬局として機能することを求めています。電子処方箋サービスにより患者の全薬剤の管理が実質初めて可能となる点は、かかりつけ薬局として機能できるチャンスです。全薬剤把握を前提とした、オンライン服薬指導は、プライバシーに完全配慮した、理想的な服薬指導を実現します。オンライン診療、オンライン服薬指導もぜひ、ご検討ください。

あじさいネットOFFLINE通信 編集長 松本 武浩

あじさいな人々

たくま かずひこ



漫画制作： たくま医院 院長 詫摩和彦先生
(長崎市医師会所属 / 長崎在宅Dr.ネット 副理事長)

*ご感想は、あじさいネット事務局
[aj-na@nagasaki.med.or.jp]
までお願いいたします。



Good Health Creator, MEDical+sciENCE

Medical Scienceによる健康で安心な社会の創造に向けて貢献します

LSIメディエンス

臨床検査 / 健康診断サポート / 診断薬・機器 / 創業支援 /
食の安全サポート / ドーピング検査

2022年11月7日に本社を移転しました。
新本社住所:〒105-0023 東京都港区芝浦一丁目2番3号

